

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(1) 人間の尊厳と自立			
指導目標	・尊厳の保持、自立・自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 人間の尊厳と自立	5		5	(目標)：人間の尊厳と自立について理解する (内容)：尊厳の保持、自立・自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	5	0	5	

科目番号・科目名	(2) 社会の理解 I			
指導目標	・介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護保険制度	5		5	(目標)：介護保険制度について理解する (内容)：介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解。利用者等への助言 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	5	0	5	

科目番号・科目名	(3) 社会の理解 II			
指導目標	・家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる ・社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している ・障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ・成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 生活と福祉	3		3	(目標)：生活と福祉について学ぶ (内容)：家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえる (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
② 社会保障制度	9		9	(目標)：社会保障制度について学ぶ (内容)：社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③ 障害者自立支援制度	9		9	(目標)：障害者自立支援制度について学ぶ (内容)：障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解。利用者等への助言 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
④ 介護実践に関連する諸制度	9		9	(目標)：介護実践に関連する諸制度について学ぶ (内容)：成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	30	0	30	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(4) 介護の基本 I			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・業務等を理解している ・個別ケア、I C F（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している ・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護福祉士制度	3		3	(目標)：介護福祉士制度について学ぶ (内容)：介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・業務等 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	3		3	(目標)：尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 (内容)：個別ケア、I C F（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③介護福祉士の倫理	4		4	(目標)：介護福祉士の倫理 (内容)：介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解。倫理の遵守 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	10	0	10	

科目番号・科目名	(5) 介護の基本 II			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる ・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している ・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している ・介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護を必要とする人の生活の理解と支援	6		6	(目標)：介護を必要とする人の生活の理解と支援 (内容)：介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②介護実践における連携	6		6	(目標)：介護における連携について学ぶ (内容)：チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	4		4	(目標)：介護における安全の確保とリスクマネジメント (内容)：リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
④介護福祉士の安全	4		4	(目標)：介護福祉士の安全 (内容)：介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(6) コミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している ・相談関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる ・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる ・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション技術	9		9	(目標)：介護におけるコミュニケーション技術について学ぶ (内容)：利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術。 相談関係を構築し、ニーズや意欲を引き出す (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
②介護現場における利用者・家族とのコミュニケーション	8		8	(目標)：介護現場における利用者・家族とのコミュニケーションについて学ぶ (内容)：利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	(目標)：介護におけるチームのコミュニケーションについて学ぶ (内容)：状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

科目番号・科目名	(7) 生活支援技術 I			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる ・介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を修得している ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 生活支援と ICF	2		2	(目標)：生活支援と ICF について学ぶ (内容)：生活支援における ICF の意義と枠組み (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
② ボディメカニクスの活用	1		1	(目標)：ボディメカニクスの活用について学ぶ (内容)：ボディメカニクスを活用した介護の原則。実施 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
③ 介護技術の基本	14		14	(目標)：介護技術の基本について学ぶ (内容)：介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等） (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
④ 環境整備、福祉用具活用等の視点	3		3	(目標)：環境整備、福祉用具活用等の視点について学ぶ (内容)：居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(8) 生活支援技術Ⅱ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行なうことができる (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護) 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備	30		30	(目標) 利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備について学ぶ (内容)：(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護)について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行なうことができる (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	30	0	30	

科目番号・科目名	(9) 介護過程Ⅰ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的、意義、展開等を理解している 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行なう チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護過程の基礎的知識	7		7	(目標)：介護過程の基礎的知識について学ぶ (内容)：介護過程の目的、意義、展開等 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
② 介護過程の展開	10		10	(目標)：介護過程の展開について学ぶ (内容)：介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に行なう介護 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
③ 介護過程とチームアプローチ	3		3	(目標)：介護過程とチームアプローチについて学ぶ (内容)：チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(10) 介護過程Ⅱ			
指導目標	・情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行なうことができる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程を展開させる	16		16	（目標）：利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程を展開させることについて学ぶ （内容）：情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施 （講義・演習）：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
②観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる	9		9	（目標）：観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させることについて学ぶ （内容）：モニタリング、介護計画の見直し （講義・演習）：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
（合計時間数）	25	0	25	

科目番号・科目名	(11) 介護過程Ⅲ（スクーリング）			
指導目標	・実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる ・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる ・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行なうことができる ・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護過程の展開の実際 ・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する	24	24		（目標）：介護過程の展開の実際について学ぶ （内容）：実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に修得。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）の提供 （講義・演習）：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
②介護技術の評価 ・介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する	17	17		（目標）：介護技術の評価について学ぶ （内容）：介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行なうこと。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うこと （講義・演習）：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価（筆記）	1	1		
修了評価（実技）	3	3		
（合計時間数）	45	45		

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(12) 発達と老化の理解 I			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している ・老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①老化に伴う心の変化と日常生活への影響	7		7	(目標)：老化に伴う心の変化と日常生活への影響について学ぶ (内容)：老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	3		3	(目標)：老化に伴うからだの変化と日常生活への影響について学ぶ (内容)：老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	10	0	10	

科目番号・科目名	(13) 発達と老化の理解 II			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の定義、発達段階、発達課題について理解している ・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している ・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①人間の成長・発達	3		3	(目標)：人間の成長、発達について学ぶ (内容)：発達の定義、発達段階、発達課題 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②老年期の発達・成熟と心理	3		3	(目標)：老年期の発達、成熟と心理について学ぶ (内容)：老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③高齢者に多い症状・疾病等と留意点	14		14	(目標)：高齢者に多い症状、疾病等と留意点について学ぶ (内容)：高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

科目番号・科目名	(14) 認知症の理解 I			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの取組の過程を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している ・認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している ・認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①認知症ケアの理念	3		3	(目標)：認知症ケアの理念について学ぶ (内容)：認知症ケアの取組の過程を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②認知症による生活障害、心理・行動の特徴	3		3	(目標)：認知症による生活障害、心理・行動の特徴について学ぶ (内容)：認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③認知症の人とのかかわり・支援の基本	4		4	(目標)：認知症の人とのかかわり・支援の基本について学ぶ (内容)：認知症の人やその家族に対する関わり方の基本 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	10	0	10	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(15) 認知症の理解Ⅱ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントしその状況に合わせた支援ができる 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 学的側面からみた認知症の理解	10		10	(目標)：医学的側面からみた認知症の理解について学ぶ (内容)：代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
② 認知症の人や家族への支援の実際	10		10	(目標)：認知症の人や家族への支援の実際について学ぶ (内容)：認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントしその状況に合わせた支援。地域におけるサポート体制を理解。支援に活用。 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

科目番号・科目名	(16) 障害の理解Ⅰ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 障害者福祉の理念	4		4	(目標)：障害者福祉の理念について学ぶ (内容)：障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
② 障害による生活障害、心理・行動の特徴	3		3	(目標)：障害による生活障害、心理・行動の特徴について学ぶ (内容)：障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
③ 障害児者や家族へのかかわり・支援の基本	3		3	(目標)：障害児者や家族へのかかわり・支援の基本について学ぶ (内容)：障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
修了評価	0			
(合計時間数)	10	0	10	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(17) 障害の理解Ⅱ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している ・障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況にあわせた支援ができる ・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 医学的側面からみた障害の理解	10		10	(目標)：医学的側面からみた障害の理解について学ぶ (内容)：様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
② 障害児者への支援の実際	10		10	(目標)：障害児者への支援の実際について学ぶ (内容)：障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況にあわせた支援。地域におけるサポート体制を理解。支援に活用。 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

科目番号・科目名	(18) こころとからだのしくみⅠ			
指導目標	・介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等）	20		20	(目標)：介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解について学ぶ (内容)：介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	20	0	20	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(19) こころとからだのしくみⅡ			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している ・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している ・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行なえる 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①人間の心理	6		6	(目標)：人間の心理について学ぶ (内容)：人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識 (講義)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義する。
②人体の構造と機能	24		24	(目標)：人体の構造と機能について学ぶ (内容)：生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
③身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期の介護	30		30	(目標)：身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等について学ぶ (内容)：身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携 (講義・演習)：テキスト・レジメ・資料を活用し講義を行い、演習を通して理解を深める
修了評価	0			
(合計時間数)	60	0	60	

科目番号・科目名	(20) 医療的ケア			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職との連携をもとに、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
第1章：人間と社会 ①個人の尊厳と自立	0.5		0.5	(目標)：医行為を行う者としての心構えについて周知する。 (内容)：利用者の尊厳を守り、自立を助ける支援について。 (講義)：テキスト・資料（事例）を活用し講義する。
②医療の倫理	0.5		0.5	(目標)：医行為を行う者としての心構えについて周知する。 (内容)：自己決定の権利/個人情報保護/インフォームドコンセントの必要性について。 (講義)：テキスト・事例を提示し討論方式で講義する。
③利用者や家族の気持ちの理解	0.5		0.5	(目標)：利用者・家族の気持ちを理解することの重要性が説明できる。 (内容)：利用者・家族の気持ちの理解。 (講義)：テキスト・課題を提示しロールプレイ方式で講義する。
第2章：保健医療制度とチーム医療 ①保健医療に関する制度	1		1	(目標)：保健医療/介護保険/その他の制度について理解する。 (内容)：保健医療/介護保険/その他の制度について。 (講義)：テキスト・資料（制度の要約）を活用し講義する。
②医行為に関する法律	0.5		0.5	(目標)：医行為に関する法律について理解する。 (内容)：医行為とは（法的な理解）/医行為と医療スタッフ/介護職と医行為。 (講義)：テキスト・経験談を交えながら講義する。
③チーム医療と介護職員との連携	0.5		0.5	(目標)：チーム医療において連携の重要性及び構成する主な職種を理解する。 (内容)：チーム医療と実際/たんの吸引と経管栄養についての医療職と介護職の連携について。 (講義)：テキスト・課題を提示しロールプレイ方式で講義する。

別紙2 授業概要（通信コース）

第3章：安全な療養生活 ①痰吸引や経管栄養の安全な実施	2	2	(目標)：安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性及び対応を理解する。 (内容)：安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性リスクマネジメントの考え方や枠組み/ヒヤリハット、アクシデント報告。 (講義)：テキスト・資料（事例）を提示しディスカッション方式で講義する。
③ 急蘇生法	2	2	(目標)：救急蘇生についての知識と手順の理解する。 (内容)：救急蘇生について/ガイドライン (講義)：テキスト・DVDを活用し講義する。
第4章：清潔保持と感染予防 ①感染予防	0.5	0.5	(目標)：正しい手洗い法、うがい法を習得する。 (内容)：地域集団/施設・組織としての予防策/手洗い、うがい。 (講義)：テキストを活用し実演。
②職員の感染予防	0.5	0.5	(目標)：個人衛生の重要性及び方法を理解する。 (内容)：職員自身の健康管理/ワクチン接種/手袋やガウンの装着/職員に切り傷がある場合や風邪の場合。 (講義)：テキスト・デモンストレーション。
③療養環境の清潔、消毒法	0.5	0.5	(目標)：療養環境の清潔、消毒法を学ぶ。 (内容)：居室、トイレ、キッチン/排泄物、吐しゃ物、血液や体液がついたもの/医療廃棄物の処理について。 (講義)：テキストを中心に講義する。
④ 菌と消毒	1	1	(目標)：消毒と滅菌の違いについての理解及び主な消毒液の使い方と留意点を理解する。 (内容)：消毒液と滅菌の違い、消毒液の使い方と留意点。 (講義)：テキスト・滅菌物の観覧。
第5章：健康状態の把握 ①身体・精神の健康	1	1	(目標)：どのような状態が健康であるのかを理解する。 (内容)：平常状態について。 (講義)：②健康状態を知る項目と併せて講義。テキスト・実技
②健康状態を知る項目（バイタルサインなど）	1.5	1.5	(目標)：バイタルサインの理解とその見方ができるようになる。 (内容)：バイタルサインとその他の兆候について。 (講義)：テキスト・実技
③急変状態について	0.5	0.5	(目標)：急変状態、その対応、報告、連絡方法について理解する。 (内容)：急変状態についてとその対応。 (講義)：テキスト・ディスカッション。
第6章：高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論 ①呼吸のしくみと働き	1.5	1.5	(目標)：喀痰吸引に関連する呼吸の仕組みと働きを習得する。 (内容)：生命維持における呼吸の重要性。呼吸の仕組みと主な呼吸器官各部の名称と・機能。呼吸器官の働き（換気とガス交換） (講義)：テキスト・資料（パワーポイント・要約資料等）。医療職が学ぶのような詳細な解剖生理の学習などではなく、喀痰吸引に直接的・間接的に関連する内容に限定した内容を講義。
② いつもと違う呼吸状態	1	1	(目標)：いつもと違う呼吸状態の判断及び対応法、呼吸困難による苦痛と障害の理解ができる。 (内容)：いつもと違う呼吸状態及びその苦痛と障害 (講義)：テキスト・事例・経験発表等で、状態像イメージ・理解を促す。
③たんの吸引とは	1	1	(目標)：痰を生じて排泄するしくみ及び利用者の状態像を踏まえた理解ができる。 (内容)：痰を生じて排泄する仕組み。痰の貯留を示す状態。痰の吸引とは。痰の吸引が必要な状態。 (講義)：テキスト・事例。医療職が学ぶレベルの病態学・生理学的な内容に深く入り込まず、介護職として確実に理解しておく必要のある内容を焦点化して講義。
③ 人工呼吸器と吸引	2	2	(目標)：人工呼吸器のしくみ、人工呼吸器装着者に対する吸引の留意点、安全確保のために必要な知識・医療職との連携を理解する。 (内容)：吸引について。人工呼吸器が必要な状態。人工呼吸器のしくみ。人工呼吸器装着者の生活支援上の留意点。人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医療職との連携。 (講義)：テキスト・パワーポイント・カニューレ等の観覧。
④ 子供の吸引について	1	1	(目標)：子どもの吸引に関する留意点を理解する。 (内容)：吸引を必要とする子どもとは。子どもの吸引に使用する物品。子どもの吸引の留意点。 (講義)：テキスト・資料・パワーポイント。

別紙2 授業概要（通信コース）

⑥吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	0.5		0.5	<p>（目標）：吸引を必要とする利用者及び家族の気持ちを理解すると共に、信頼関係を築いた上で実施することの重要性を理解する。</p> <p>（内容）：利用者の吸引に対する気持ち。家族の吸引に対する気持ち。利用者・家族の気持ちに沿った対応と留意点。吸引の実施に関する説明と同意。</p> <p>（講義）：テキスト・ディスカッションを交えて講義。</p>
⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）	1		1	<p>（目標）：吸引行為に関連した感染の可能性の理解及び感染予防を理解する。</p> <p>（内容）：呼吸器系の感染が起きた可能性を示す状態（発熱や痰の状態等）。呼吸器系の感染予防。</p> <p>（講義）：テキスト・吸引行為に関連して感染予防のために注意すべき点を中心に講義。</p>
⑧たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認	1		1	<p>（目標）：吸引により生じる主な危険の種類と危険防止のための留意点・ヒヤリハットアクシデントの主な実際・危険防止のために必要な医療職との連携とその対応を理解する。</p> <p>（内容）：痰の吸引により生じる危険性の種類。ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方。危険防止のための医療職との連携体制（日常的な報告・連絡・相談）</p> <p>（講義）：テキスト・資料（事例）・ディスカッションを中心に講義。</p>
⑨急変・事故発生時の対応と事前対策	2		2	<p>（目標）：緊急を要する状態・急変や事故発生時に実施すべき対応・医療職との連携（体制作り）の重要性を理解する。</p> <p>（内容）：緊急を要する状態（症状）。急変・事故発生時の対応及び事前の備えの重要性。</p> <p>（講義）：テキスト・資料（事例）・ディスカッションを中心に講義。</p>
第7章：高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説 ①たんお吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	1		1	<p>（目標）：吸引の器具・器材とその仕組み・管理方法を理解する。</p> <p>（内容）：吸引の必要物品。吸引器・器具・器材の仕組み。必要物品の清潔保持（消毒薬・消毒方法）</p> <p>（講義）：テキスト・実物（実際の吸引器等）を用いて講義。</p>
③ 引の技術と留意点	5		5	<p>（目標）：実際の吸引の技術の一連の流れと各段階での留意点が理解できる。</p> <p>（内容）：必要物品の準備・設備・設置と留意点。吸引前の利用者の状態観察（呼吸状態・口腔内・義歯など）と留意点。吸引前の利用者の準備（姿勢・プライバシー確保など）と留意点。吸引実施手順と留意点。吸引実施に伴う利用者の身体変化（バイタルサイン・呼吸状態・顔色など）の確認と医療職への報告。吸引実施後の吸引物（色・性状）の確認と医療職への報告。吸引後の片付け方法と留意点。</p> <p>（講義）：テキスト・人形・一連のデモンストレーションを通した後に、実際に受講生に経験してもらう。</p>
④ んの吸引に伴うケア	1		1	<p>（目標）：効果的な吸引に関連したケアの理解と利用者の苦痛を最小限にするために必要なケアを理解する。</p> <p>（内容）：痰を出しやすくするケア。体位を整えるケア。口腔内のケア。</p> <p>（講義）：テキスト・資料（呼吸リハビリテーション）・デモンストレーションを中心に講義。</p>
⑤ 告及び記録	1		1	<p>（目標）：報告連絡方法について理解する。</p> <p>（内容）：医療職への報告及び連絡方法。記録の意義と記録内容・書き方。</p> <p>（講義）：テキスト・演習を中心に講義。</p>
第8章：高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論 ①消化器系のしくみと働き	1.5		1.5	<p>（目標）：消化器系（食物を口から取り入れ排泄までの過程）の名称や役割について理解する。</p> <p>（内容）：消化器系の仕組みと役割・機能。嚥下の仕組み。主な消化器系器官各部の名称と構造。</p> <p>（講義）：テキスト・パワーポイントにて講義。</p>
②消化・吸収とよくある消化器系の症状	1		1	<p>（目標）：消化・吸収について理解する。</p> <p>（内容）：消化・吸収について。よくある消化器の症状。</p> <p>（講義）：テキスト・事例をもとに講義。</p>
④ 経管栄養法とは	1		1	<p>（目標）：経管栄養法及び必要な状態を理解する。</p> <p>（内容）：経管栄養が必要な状態。経管栄養の仕組みと種類。</p> <p>（講義）：テキスト・資料・パワーポイントにて講義。</p>

別紙2 授業概要（通信コース）

⑤ 注入する内容に関する知識	1	1	(目標)：注入物の種類・栄養摂取と水分摂取の必要性を理解する。 (内容)：生命維持における栄養・水分摂取・消化機能の重要性。経管栄養で注入する内容について。 (講義)：テキスト・資料(注入物の種類)にて講義。
⑥ 経管栄養実施上の留意点	1	1	(目標)：経管栄養の実施上の留意点を理解する。 (内容)：経管栄養実施上の留意点。 (講義)：テキスト・事例・経験談にて講義。
⑦ 供の経管栄養について	1	1	(目標)：子どもの経管栄養の実際に関する留意点を理解する。 (内容)：経管栄養を必要とする子どもとは。子どもの経管栄養に使用する物品・使用法。子どもの経管栄養の留意点。 (講義)：テキスト・事例を中心に講義。
⑦経管栄養に関する感染と予防	1	1	(目標)：経管栄養実施に伴う感染と予防を理解する。 (内容)：経管栄養実施の利用者の消化器感染について。経管栄養実施の状態の感染予防。口腔ケアの重要性。 (講義)：テキスト・資料(消化器系の図)・パワーポイントにて講義。
⑧経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	0.5	0.5	(目標)：経管栄養を必要とする利用者及び家族の気持ちを理解すると共に、信頼関係を築いた上で実施することの重要性を理解する。 (内容)：利用者の経管栄養に対する気持ち。家族の経管栄養に対する気持ち。利用者・家族の気持ちに寄り添った対応と留意点。経管栄養の実施に関する説明と同意。 (講義)：テキスト・ディスカッションを交えて講義。
⑨経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	1	1	(目標)：経管栄養により生じる主な危険の種類と危険防止のための留意点・ヒヤリハットアクシデントの主な実際・危険防止のために必要な医療職との連携とその対応を理解する。 (内容)：経管栄養により生じる危険性の種類。ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方。危険防止のための医療職との連携体制(日常的な報告・連絡・相談) (講義)：テキスト・資料(事例)・ディスカッションを中心に講義。
⑩急変・事故発生時の対応と事前対策	1	1	(目標)：緊急を要する状態・急変や事故発生時に実施すべき対応・医療職との連携(体制作り)の重要性を理解する。 (内容)：緊急を要する状態(症状)。急変・事故発生時の対応及び事前の備えの重要性。 (講義)：テキスト・資料(事例)・ディスカッションを中心に講義。
第9章：高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 ①経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	1	1	(目標)：経管栄養の必要物品とその仕組み・管理方法を理解する。 (内容)：経管栄養の必要物品。必要物品の清潔保持(消毒薬・消毒方法)。挿入部の消毒及び消毒薬。 (講義)：テキスト・実物(実際の吸引器等)を用いて講義。
② 経管栄養の技術と留意点	5	5	(目標)：実際の吸引の技術の一連の流れと各段階での留意点が理解できる。 (内容)：必要物品の準備・設備・設置と留意点。経管栄養前の利用者の状態観察(呼吸状態・腹部の状態など)と留意点。経管栄養前の利用者の準備。(姿勢・プライバシー確保など)と留意点。経管栄養実施手順と留意点。経管栄養実施に伴う利用者の身体変化(バイタルサイン・呼吸状態・顔色など)の確認と医療職への報告。経管栄養実施後の手順と留意点、利用者の身体変化の確認と医療職への報告。経管栄養終了後の片付け方法と留意点。 (講義)：テキスト・人形・一連のデモンストレーションを通した後に、実際に受講生に経験してもらう。
③ 管栄養に必要なケア	1	1	(目標)：効果的な経管栄養に関連したケアの理解と利用者の苦痛を最小限にするために必要なケアを理解する。 (内容)：消化機能を促進するケア。体位を整えるケア。口腔内や鼻のケア。胃ろう部(腸ろう部)のケア。 (講義)：テキスト・資料(呼吸リハビリテーション)・デモンストレーションを中心に講義。
④ 告及び記録	1	1	(目標)：報告連絡方法について理解する。 (内容)：医療職への報告及び連絡方法。記録の意義と記録内容・書き方。 (講義)：テキスト・演習を中心に講義。
(修了評価)	(3)	(3)	※講義時間数としては含まない (習得状況は通信課題にて確認し、別途修了評価を実施する)
(合計時間数)	50	50	

別紙2 授業概要（通信コース）

科目番号・科目名	(20) 医療的ケア（演習）			
指導目標	・医療職との連携をもとに、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術（喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法）を一人で実施できるようになる。 ・一人で実施出来るようになるまで、指導及び演習を行う。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 時間数	うち 通信 時間数	目標・講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①口腔内吸引	1	1		（目標）：口腔内吸引が一人で実施できるようになる。 （内容）：最低 5 回以上は演習を行い、添付の評価表を用いてチェックを行う。 （講義）：指導者評価表・テキスト・資料・器具等を用いて演習を行う。
② 鼻腔内吸引	1	1		（目標）：鼻腔内吸引が一人で実施できるようになる。 （内容）：最低 5 回以上は演習を行い、添付の評価表を用いてチェックを行う。 （講義）：指導者評価表・テキスト・資料・器具等を用いて演習を行う。
⑤ 気管カニューレ内部吸引	0.5	0.5		（目標）：気管カニューレ内部吸引が一人で実施できるようになる。 （内容）：最低 5 回以上は演習を行い、添付の評価表を用いてチェックを行う。 （講義）：指導者評価表・テキスト・資料・器具等を用いて演習を行う。
⑥ 経管栄養：胃ろう（腸ろう）	1	1		（目標）：胃ろう（腸ろう）からの経管栄養が一人で実施できるようになる。 （内容）：最低 5 回以上は演習を行い、添付の評価表を用いてチェックを行う。 （講義）：指導者評価表・テキスト・資料・器具等を用いて演習を行う。
⑦ 経管栄養：経鼻	1	1		（目標）：経鼻チューブからの経管栄養が一人で実施できるようになる。 （内容）：最低 5 回以上は演習を行い、添付の評価表を用いてチェックを行う。 （講義）：指導者評価表・テキスト・経験談を交えながら講義する。
⑧ 急蘇生法	0.5	0.5		（目標）：救急蘇生法をシュミレーターを用いて実施できるようになる。 （内容）：心肺蘇生法の手順・心停止の判断・AED使用法 （講義）：シュミレーターを用いて、全員が最低 1 回以上は演習を行う。

※ 備考

医療的ケア（演習）については、最大で受講生5人毎に講師を一人配置する

講師補助要件：看護師または医師 且つ 医療的ケア教員講習会修了者とする